

---

# ホワイトデーの天使たち

七島 希意

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>



「だああああ！ダメだ。緊張するう。」

「何、独り言いつてんだよ。」

「お前がいるから独り言ではねえだろッ！」

「オレ・・・何聞いてたっけ？」

「こんなところで冗談言うなよ・・・。」

「さっさつと返事して返って来い。お前が緊張してどっすんだよ。」

「だよな。あっちの方が勇気振り絞って・・・。」

「さっさつと言って来いっつってんだろ。」

「わかった。おうッ。いやー。返事すんのも大変だっ。」

「自慢してんのか？だったら、オレ帰るぞ？」

「までッ！……やっぱり一緒に行ってくんない？」

「ふざけんな。」

今、オレは住宅街の少しひらけた場所にいた。

なぜなら、オレは今日バレンタインの日に告白してくれた女子に返事をするからだ。

もちろんこの会話の感じだと返事は”OK”だろうけど。それまでが長い。

どんだけだ……。

「はやくしろよー。」

「急<sup>せ</sup>かすな——！」

「急かせねーと行かなえだろっがッ！」

「ふうー。行くな？」

「おっ。」

一歩を踏み出す。

新しい一歩を。

気づいたときには、もう家の前だった。

「ふうー。」

どきどきどき。

心臓が大変なくらい早く脈をうつ。

ぷるぷると震える右手を左手でおさえながらインターホンに手を伸ばした。

あと、2センチのところだ・・・

「アンパーインチ！」

「はっつッー！」

ひざカックンのな。

つまりは、ひざの裏側をパンチされた。

後ろを振り向くと小さな男の子が自分のすぐわきにいた。

そして、すこし離れたところに小さな女の子がいた。

「お前、よわいな。」

「はあ？」

突然、男の子が口を開いた。

「悪ものめー」。

「？」

小さい子の考えることはわからない。

だが・・・今気づいた。

「（もしかして・・・この子達、弟と妹か？）」

「お兄ちゃん。うちになんのよう？」

離れた場所にいた女の子が言った。

「（やっぱりか。）  
オレはな・・・」

「す  
るじ、

ガチャ

玄関のドアが開いた。

「あっ……。」

出てきたのは、自分に告白してきた、同級生だった。

「なにしてるの？」

「なにしてあの……その君に返事……。」

「あッ……うん。」

彼女は、自分の目の前まで出てきた。

そして、なぜか今までオレと距離をおいていた女の子までも近づいてきた。

オレの後ろ隣には、左に女の子が自分の服を握っていて、右には男の子がいた。

「（なんなんだ・・・。）」

目の前の彼女は、顔を赤らめている。

なんとも返事しにくい状況だ。

でも、意を決する。

「オレは・・・君の事を・・・」

ここまで言えばだいたい続きがわかるだろうけど・・・自分の口から言葉がでてこないわけで・・・。

「えっと・・・その・・・」

きつと自分の顔も真っ赤だ。

「好き？」

その言葉を発したのは、右隣にいた男の子だった。

驚いたが・・・ありがとう！少年！

「そう！それッー！それで、あの、つまり・・・えっと・・・？」

次の言葉がテンパリすぎて言葉をど忘れして出てこない・・・。

さすがに男の子も知らないだろうし・・・。

えっと・・・？

誰か・・・教えてください・・・（泣

「付き合ってください・・・でしょ？」

口を開いたのは、左隣にいた、女の子だった。

「・・・。」

ありがとうー！ー！ー！ー！天使に見えるぞ！？今の君は天使だあ！

「うんッ。付き合っほしいんだ。オレよ。」

「……もちろんッ！よろしくね。」

「おうッ！」

「よかったね。お兄ちゃん。」

「やったな！ばいきんマンよ。」

「ばいきんマンじゃねー。でも、ありがとな。小さな天使たち。」

「それ……ベタすぎ……。」

女の子がつぶやいた。

一方、友達のほうは……

「なにやってんだよ・・・ッ。。。」

待ちくたびれて、友が歩いていった方を覗くと、、

「あいつら、、家族にでもなつたか？」

今までうじうじしていた友が2人の子供に囲まれていて、目の前には友に告白してきた子。

「ずいぶん親しくなったもんだな・・・。」

あいつらの将来が楽しみだ。(友達談)

それでは、みなさん！ハッピー・ホワイトデー！

っつてこじでッ

(後書き)

作者は、恋する子を応援していますW

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3039k/>

---

ホワイトデーの天使たち

2010年10月9日06時08分発行